

評価項目	評価指標	具体的方策	評価基準				中間評価			
			4	3	2	1	評価	成果〇と課題▲	改善策	
確かな学力を身に付けた児童の育成	○各学期末テスト（知識・技能）の通過率80%未満を0に近付ける。（基礎問題）	○基礎問題通過率80%未満の児童に対して個別指導を充実させる。 （朝・昼学習、給食前学習、放課後学習、海小タイム、家庭学習の充実） ○基礎計算を重視する。 （家庭学習、ドリルタイムの活用） ○音読を重視する。（家庭学習、授業） ○条件に合わせて書く活動を通して、表現する力を高める授業づくりを行う。 （海小タイム、朝帯タイム、各教科内で実を伴う活動） ○読書活動を充実させる。 （読書タイムや並行読書を通して、本との出会いの場を設け、不読率を下げる）	通過率 80%未満の割合	0～ 5% 未満	5～ 10% 未満	10～ 15% 未満	15% 以上	2	【各学期末テスト（知識・技能）の通過率80%未満の割合】 国語科8.7%（74/395） 算数科12.9%（56/395） ○ドリルタイムの計画をしっかりと立て、実行することで、教師の意識改革が進み、計算力や言語力を高めることができた。 ○音読テストへ向け、全児童が目標をもって取り組み、音読の力を高めることができた。 ▲読書活動については、PTAから図書を寄贈してもらっており、環境を整えつつある。今後、委員会を中心とした読書量を増やす取組が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級間、学年間で指導の質や方向性が偏らないように、縦や横との連携をとり、全校教職員で繰り返し共通認識を図りながら学習活動を進めていく。 ・算数科における低学年の基礎学習を積み残さないための取組として、足し算・引き算・かけ算九九の定着を図るべく、専科教職員も参加して繰り返し学習を行う。 ・カリキュラムマネジメントを充実させ、並行読書など読書活動を充実させる。また、PTAから寄贈していた図書をいかした取組を行う。 ・2学期より給食前学習、放課後学習を開始し、達成感を高める。 ・家庭学習の仕方を示し、児童同士でよい取組について交流させ、意欲を高める。
	○標準学力調査の記述問題で平均正答率が目標値を上回る。	目標値に対する 学校平均正答率	上回る	同等	10Pt 未満 下回る	10Pt 以上 下回る	－			
人や時間を大切にすることができる児童の育成	○気持ちの良い挨拶ができる児童 80%	○各クラスによる校門でのあいさつ運動を行う。 ・朝の挨拶運動 ・挨拶のきっかけ作り ○登校班での育成を行う。 ・登校班長指 ・ピックアップ指導 ○心の元気委員会を活用して啓発を行う。 ・月1回の挨拶運動 ・全校への啓発等 ○継続した振り返りを行う。 ・自己評価 ・挨拶の意義の確認 ○挨拶名人表彰を行う。 ・学期ごとにクラスで2名挨拶を頑張った児童を選出し表彰する。 ○海田西中学校区あいさつ目標の確認を行う。 ・立ち止まって ・相手の目を見て ・自分から	児童の自己評価 を踏まえた教師 の見取り	80%以上	75% 以上	70% 以上	70% 未満	4	【アンケートで気持ちの良い挨拶ができたと回答した児童の割合】 （先生に対して）87%（地域の人に対して）84% （友達に対して）85%【全体】85% ○登校班の班長・副班長など高学年が良いお手本となっている。 ○夏季休業中の課題として、「心の元気委員会」が「あいさつ標語」を募集したところ「あいさつの大切さ」を認識して作成した作品が多かった。 ○各担任が、児童の発達段階に応じて、「あいさつの大切さ」について日頃から話をした。 ●元気のいいあいさつができる児童は増えてきたが、様々な場面での自発的なあいさつは十分には出来ていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・西中学校区のあいさつ目標である「立ち止まって 相手を見て 自分から あいさつ」を、全児童にもう一度確認し、あいさつ運動等の取組については、放送や学校・学年だよりでのお知らせや前日に各学級でも呼びかける等、学校全体で一体となった取組となるよう徹底する。 ・良かった取組については、根気強く継続する。
	○チャイムと同時に学習が始められる児童 80%以上	○児童の意識向上と継続指導を行う。 （チャイムと同時に学習が始めることの意義の説明、全校指導、学級指導等による啓発、評価） ○教員の意識を徹底させる。 （休憩時間の確保、授業終了時刻の厳守） ○振り返りを充実させる。 （自己評価、次の授業の準備をすることの意義の確認）	児童の評価を踏 まえた教師によ る見取り	80% 以上	75% 以上	70% 未満	70% 未満	4	【チャイムと同時に学習が始められる児童の割合】 （全体）92% ○4月当初に、「着ベル」の意義を理解させたことにより、「着ベル」の意識づけができられる児童が増えた。 ○「着ベル」週間後も、守れる児童が増えた。 ●着ベルを意識したが、外遊び後の手洗い・うがい・水分補給との両立が難しい時がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から担任だけでなく専科の教諭も口頭で評価をし、着ベルを意識させる。 ・外遊び後の手洗い・うがい・水分補給との両立については、それを理由に守らないのではなく「着ベル」について意識させるように指導する。
進んで運動し体力を高める児童の育成	○50m走の記録が伸びた児童 70%以上	○大休憩、学級タイム、ロング昼休憩では、原則、児童全員外遊びをする。 ○運動委員会の児童を中心に、大休憩や昼休憩に鬼ごっこをする環境を整える。	50m走を4月と 12月に測定し、 記録が伸びた児 童の割合	80% 以上	70% 以上	60% 以上	60% 未満	2	【6年生】65% ・50m走を4月と9月に測定し、記録が伸びた児童の割合が、65%であった。 ○大休憩、昼休憩、学級タイムでの外遊びを通して、児童が継続して運動をしていた。 ○夏休みに体力アップ貯金カードを用いて、長期休暇も児童が継続して運動する環境を設定した。 ▲夏場は、マスク着用や猛暑の影響で、全力運動をする時間の確保が難しかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・10月実施の町陸や12月実施の完走大会に向けて、「走る」機会が増えてくる。児童に目標をもたせ、取り組ませていきたい。 ・運動委員会の児童が主体となり、「走る」に重点を置いた外遊びに取り組んでいく。
元気に学校へ来ることができる児童の育成	○生活リズムカレンダーで自分が設定した就寝時刻の目標が達成できた割合 70%以上	○学級活動及び保健の授業、生活リズムカレンダーや保健委員会による啓発等により、生活リズムを整えるための基礎作りをする。	生活リズムカレ ンダーの早寝の 項目においてA 評価の児童70% 以上	80% 以上	70% 以上	60% 以上	60% 未満	3	【生活リズムカレンダーで自分が設定した就寝時刻の目標が達成できた割合】73.3% ○4割の児童は、5日間、就寝時刻の目標が達成できており、規則正しい生活習慣が身についている。 ▲約1割の児童は、5日間、1日目目標が達成できていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活習慣づくりについて、各学級で保健指導を行う。 ・前回の生活リズムカレンダーの結果を振り返り、具体的にがんばることを決め、取り組ませる。 ・保健委員会の児童による啓発を行う。 ・生活リズムカレンダーの結果や学校での様子が気になる児童に対して、懇談会等で保護者と連携をとる。
業務改善	○時間外勤務45時間以内の職員の割合を70%以上	○水曜日は原則定時で退校する。 ○業務の効率化と協働化を進め、全職員による並行作業を行う。 ○学期末に評価に関する事務を行う日を設定する。	入退校時刻記録 を基にした時間 外勤務45時間以 内の職員の割合 を70%以上	80% 以上	60% 以上	40% 以上	40% 未満	3	【4～8月末日までの5か月平均の時間外勤務45時間以内の教職員の割合】60.8% ○退勤時間を自己管理するシステムを強化したことで、少しずつ時間を意識して業務を行う体制が整ってきている。 ▲コロナ禍で欠席した児童に対しての連絡や授業準備等、家庭との連携に多くの時間がかかった。また、教職員の中にも、欠勤を余儀なくされた者もあり、欠勤者担当授業の補充による授業数の増加も多かった。	<ul style="list-style-type: none"> ・退勤時間の自己管理システム化を継続するとともに、週の中における定時退校日を設ける等の取組を行っていく。 ・職員会議や各部会を計画的に実施するとともに、成績等の作業時間を確保していく。